

梶田稔議員の提案実る

平成22年 第3回武豊町議会定例議会

会議録より抜粋

(※会議録 124p～133p 参照。図書館で閲覧できます。)

梶田稔議員は、昨年9月3日、町政に関する一般質問をおこない、その中でロケット関係をテーマに取り上げ、次のように町当局の見解を質しました。会議録から抜粋して紹介します。

なお、最後に提案したカプセルの展示が、8月4日から7日まで町民会館（ゆめたろうプラザ）で開催されます。梶田稔議員の提案が、具体的に実現することになりました。

梶田稔議員の一般質問・答弁

会議録 125p：第3の質問は、ペンシルロケット開発ゆかりの地・武豊に、ロケット科学博物館の設置を求める問題についてであります。

小惑星「イトカワ」から、60億kmの長旅を終えて7年ぶりに帰還した探査機「はやぶさ」が持ち帰ったカプセルが展示された会場には長蛇の列が連なりましたが、その光景は宇宙への関心の高まりを端的に表しています。

宇宙探査にはロケットが不可欠であり、そのロケットの推進薬の製造と最初のペンシルロケットの開発が、この武豊の地においてもすすめられたことは、知る人ぞ知る事実であります。

日本のロケットの歴史は、このペンシルロケットから始まったと言われてはいますが、そのペンシルロケット開発の先進地、発祥の地と称するのは決して過大なことではないと思います。

ロケット発祥の地・武豊ここにありと、全国にその名を轟かせることになるだけでなく、次代を担う児童・生徒に夢と希望を与え、学校教育等へ大きな影響を及ぼすこととなることを確信するものであります。

そこでお尋ねしますが、2014年、合併60周年記念の一環として、愛知県当局に積極的に提起し、県施設としてロケット科学博物館の設置を要請することを切望するものですが、見解を伺いたい。

ある町民の方からは、武豊町にそのような博物館が設置されれば、ペンシルロケットやH-IIロケット、糸川英夫博士の関係資料などを提供できるとの申し出もあります。

ロケット科学博物館が設置されれば、このほど設立された観光協会の超目玉スポットとしても、内外の注目を集めることは間違いないと確信するものであります。

過日の衣浦港3号地の開所式における愛知県知事の挨拶の中で、地元武豊町への寄与・貢献について言及があり、それを受けて靄山町長は大いに期待している旨の挨拶を返しました。そのやりとりが、単なる外交辞令、精神的なエールの交換ではなく、具体的な措置の一環として、県施設の設置を求めることは時宜を得た提起だと確信するものであります。

また、武豊町の特徴ある教育の一環として、「ロケット発祥の地・たけとよ」とでも銘打った副

読本を編纂・発行すべきと考えますが、見解を伺いたい。

町当局の答弁

会議録 128 p : ○総務部長（大岩一政君）：3点目のペンシルロケットの科学博物館の関係でございます。

その1点目の、合併60周年記念の一環として、ロケット科学博物館を県施設として設置の要望をという点でございます。

たいへん夢のあるご提案として、愛知県に届けさせていただきたいと思っております。

ただ、客観的な情勢を申し上げますと、県においては、この種の新たな施設の整備は、かなり厳しい状況にあると思われまます。

と申しますのも、県は行政改革基本方針として、かねてより県有の建築物、いわゆるハコモノの抑制を打ち出しております。既定の計画を除き、新規事業は基本的に行わないということとしているからでございます。

因みに、現在、県が進めている施設整備は、JAXA、宇宙航空研究開発機構と連携をして、県営名古屋空港内に建設する航空宇宙産業建設研究開発施設、それから瀬戸市と豊田市にまたがる次世代モノづくりの技術の創造・発信の拠点である知の拠点、そして本年10月、万博会場跡地にオープンする地球市民交流センターであります。

いずれも県の重点施策である先端産業の振興とCOP10に関わる、いわば戦略的施設として例外的な対応がなされておりますが、これら以外の施設が整備対象になり得る可能性はかなり低いと見ざるを得ないと思っております。

以上であります。

会議録 128 p : ○教育部長（各務正巳君）続きまして、3点目、ペンシルロケットの関係で、ロケット発祥の地・武豊の副読本の関係であります。

平成23年度には、小学校は教科書改訂となるため、それに伴い現在使用している社会科の副教材であります「たけとよ」の改訂を予定をしているところであります。

この副教材の改訂作業は、町内に在籍する社会科の先生方により研究部会を設け、新しい教科書との整合性を図りながら、武豊の産業等を学ぶための教材となるよう調査研究し、「たけとよ」という副読本を製本化するものであります。

ロケット発祥の地・武豊につきましては、この研究会に提案させていただき、検討していただけるようお願いしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

梶田稔議員の再質問・答弁

会議録 132 p : 3つ目の点ですけれども、県の施設としては3つほど例を出されて、それ以外はいわゆるハコモノ行政、新規なしというご答弁がありました。いわゆるハコモノ行政と言われるの

は、まさにハコだけ造って中身がないという、ムダの象徴のような表現として使われるわけですが、目的がキチツとしていて、意味もあり意義もある、その地域にとって非常に重要な意義を持つということであれば、いわゆるハコモノ行政として括られる範疇のものとはなり得ないというように私は確信をするわけで、いわゆるハコモノ行政に対する国民の批判の厳しいことは、私も百も承知で、私自身が普段からハコモノ行政けしからんということを言っていることからみても、分かっていただけだと思います。

そういう点で、私は、宇宙科学博物館の設置というのは、いわゆるハコモノではなくて、いま閉塞状態にある政治状況や経済状況から、武豊町をもう一度掘り起こして、武豊町ここにありという行政の、本当に超目玉の一つになるんじゃないかと確信を持って提起をしているわけです。

しかも、別に日油の肩を持つ、肩だけを持つつもりはないですけども、武豊町でその生産を担当している、現に、生産もしているという町で、4万2千人の町民の間で武豊町がロケット産業の最先端の一翼を担っているという実感を持っている人がどれだけいるんでしょうか。ほとんどいないと言ってもいいぐらいじゃないかと思うんですね。

そこから、実際にある武豊町の姿を陽の当たる場所へ出して、そして、ああ武豊町というのはこういう町かと、単にみそ・たまりの町というだけではなくて、最先端の産業の一翼を担っている町だという点が、町民のみなさんに自覚していただければ、また気持ちも変わってくるんじゃないかと、ぜひ、これをきっかけに気持ちを変えてもらいたいという思いであります。

先日、この質問をするに当たって、実際の現物を見ておいた方が良いと思って、筑波の宇宙研究センターにも行ってきました。上野の国立科学博物館にもM-Vロケットが展示してありますので、現物を見てきました。少し前でしたけれども、各務ヶ原の航空宇宙科学博物館も覗いてみました。各務ヶ原でいえば、非常に広大な敷地の中にヘリコプターや航空機が陳列してあって、展示館の中にはH-IIロケット等が20分の1模型で展示してありました。筑波では、ペンシルロケットからH-II Bロケットまで展示してありました。

そういうロケット産業、宇宙産業の武豊町が一翼を担っている、発祥の地だということは、本当に誇りを持ってPRしていくことだと思うんですね。

私たちが取り組んでいる住民アンケートの取り組みの過程で、ある町民の方から、実はロケットということでは、日油が関わっているだけではなくて、糸川英夫先生との関わりも深い。糸川先生は、先年、亡くなられましたけれども、その残してくれた資料が武豊町にも、ある住民の方の手元に届いていて、町民会館にそれが保存されている、保管されている。それから、ペンシルロケットと、ちょっと耳を疑いましたけれども、H-IIロケット、そういう受け入れ施設ができれば提供してくれるという約束ができていたという話までありました。

過日、私、ロケットのことは不勉強なものですから、少しは予備知識をと思って、日油へ訪問して、日油の中でのロケット関係の第一人者といわれる武豊出身の方から1時間近くレクチャーを受けました。

その方も、ペンシルロケットの実物大ロケットの模型と同時に、その次世代であるベビーロケット、もしそういう展示する場所があれば、資料として提供することに吝かではないというお話も伺いました。

そう話を総合しますとね、そういう博物館というの、仰々しい大々的な物というイメージもありますけれども、少なくともそういったロケット関係の資料を展示するスペースが町内にできれば、これは、私は決してオーバーではないと思いますけれども、町内外といわず、場合によっては地球の

裏側からだって、見学に訪れる人たちが武豊を訪れてくれるかも知れない。

なによりも、町内の小中学生・子どもたちに大きな夢を与えて、5年先か10年先か、20年先か分かりませんが、武豊町出身の宇宙飛行士が誕生するかも知れない。そんな夢を持たせる話ではないかと思って、関係者の話も聞きました。

そういう点で、もう一度ですね、規模の大小を必ずしも問うてはおりませんが、3号地がらみの話が先ほどもありましたけれども、ぜひ、県の施設として誘致する。私は、非常にこれも遠慮して提起しているんですが、武豊町の財政力からすれば、3年とか5年の年次計画を以てすれば、武豊町自身の博物館としても建設できるというふうに確信をしているわけですが、もう時間がないので、最後に一つ加えておきますけれども、副読本の話は、部長から研究会に提案するという話がありました。

もう一つ、最後にお尋ねしておきたいんですが、はやぶさが持ち帰ったカプセルの展示について、11月から手を挙げた博物館や自治体には、順次、巡回するという方針を表明しておりますけれども、ぜひ、手を挙げて武豊町に誘致してほしいんですが、その点、お考えをお聞かせ下さい。

会議録 133p : ○教育部長（各務正巳君） その回答だけ。確かに、新聞紙上でもはやぶさの展示ということで、これにつきましては、いろいろとやっぱり警備体制ですとか、どのような展示体制になるのか、いろんな問題が多々あろうかと思えます。

これにつきましては、決して、新聞紙上ですと科学館、博物館ということですので、武豊町にはありませんけれども、どういう条件なのか、一度、問い合わせはしてみたいというふうに思います。

【関連資料】



役場ロビーに展示されている模型（梶田稔撮影）

8月4日（木）～8月7日（日）にかけて、ゆめたろうプラザで開催される『小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展示 in たけとよ』のPRとして、6月27日（月）～8月8日まで、岡崎市の肌附裕矢さんが個人で製作した実物大模型をお借りして展示しています。「はやぶさ」は宇宙から、小惑星イトカワのかけらを採取して地球に帰還するという世界初の偉業をなしとげました。実物大ですので迫力があります。1階から見ると細部の部品がよく見えます。2階から見ると太陽電池がよく見えますよ！今回役場に展示されるのは再現模型ですが、8月にはゆめたろうプラザで、カプセルの本物を見ることができますよ。（注：武豊町ホームページより転載）